



umango

処理のソース手順書

処理のソース

処理のソースは、Umango システムによって処理されるドキュメントのエントリポイントです。Umango はソースからドキュメントを取得し、処理を開始します。Umango で設定できるドキュメント ソースは 4 種類あります。詳細については、各ソースの説明書を参照してください。

- 1. デバイス (ブラウザ、複合機、TWAIN スキャナー):** Umango で設定できるデバイスは 3 種類あります。設定後は 3 つのデバイスすべてを一緒に使用できます。3 つのデバイスは、複合機、ブラウザー (IP アドレスまたは DNS を使用してどのデバイスからでもアクセスできます)、TWAIN スキャナーです。
- 2. 電子メール (POP3、IMAP、Office 365 電子メール アカウント):** 電子メール アカウントを処理のソースとして設定すると、Umango は電子メールの受信トレイを監視し、必要な電子メールの添付ファイルおよび/または電子メールの本文を処理します。
- 3. ネットワークフォルダ:** ネットワークフォルダを処理ソースとして設定すると、Umango はフォルダーを監視し、フォルダー内のすべての新しいドキュメントを処理します。このフォルダーを、Umango でサポートされていない MFP のスキャン先として使用したり、このフォルダにドキュメントをコピーして貼り付けるだけで、Umango が自動的に処理したりできます。ネットワークの共有フォルダを選択することをお勧めします。
- 4. インポートコネクタ (クラウドストレージ):** クラウドストレージをインポートコネクタとして使用すると、「ネットワークフォルダ」をインポートコネクタとして使用する場合と同じように動作します。設定されたクラウドストレージに新しいファイルが受信されると、Umango によってフォルダー内のすべての新しいドキュメントを処理します。このフォルダーを、Umango でサポートされていない 複合機のスキャン先として使用したり、このストレージにドキュメントをコピーして貼り付けるだけで、Umango が自動的に処理したりできます。

処理のソースの構成は、処理の作成時またはインポート時に行うことができます。構成は後で変更できます。詳細については、各ソースの説明書を参照してください。